

2017 年度
専門学校サンテクノカレッジ
学校関係者評価 報告書

評価対象期間：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

2018 年 12 月
学校関係者評価委員会

目 次

I	学校関係者評価の概要と実施状況	1
	1. 学校関係者評価の目的	
	2. 学校関係者評価委員名簿	
	3. 学校関係者評価委員会の実施状況	
II	学校関係者評価委員会 評価結果報告	2
	1. 教育理念・目的・育成人材像	2
	2. 学校運営	3
	3. 教育活動	3
	4. 学修成果	4
	5. 学生支援	5
	6. 教育環境	6
	7. 学生の受入れ募集	6
	8. 財 務	7
	9. 法令等の遵守	7
	10. 社会貢献・地域貢献	8

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

専門学校サンテクノカレッジの学校関係者評価の目的は、以下の通りである。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高めること。
- ②本校の専門分野の関係団体、専門分野の関係業界、地元自治体、卒業生など、本校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること。

2. 学校関係者評価委員名簿

区分	氏名	所属等
関係団体	※泊 克洋	一般社団法人 山梨県情報通信業協会 事務局
関係業界	小野 俊治	株式会社ジインズ 取締役
	勝俣 義也	株式会社エスピーシー 顧問
地元自治体	内藤 博文	甲斐市 副市長
卒業生	井上 満邦	サンテクノカレッジ同窓会 会長

※委員長

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

(1) 第1回委員会

- ・日時：2018年10月24日（水）11:00～12:15
- ・場所：専門学校サンテクノカレッジ 会議室

(2) 第2回委員会

- ・書面による学校関係者評価報告書の内容確認および承認。

II 学校関係者評価委員会 評価結果報告

1. 教育理念・目的・育成人材像（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 学校としての基本理念があり、それを基に各学科で育成人材像を設定している。
- 各学科の教育目標・育成人材像は、企業ニーズや、業界で活躍中の非常勤講師・専門家の意見を取り入れ、カリキュラム作成を行っている。
- 技術的な面では、新技術教育の実施など積極的に取り入れている部分は評価できる。
- 卒業生からの情報収集などは、他校にはなかなかできないところではないか。
- Webサイトに掲載している教育理念は非常に分かりやすい。また、Webサイトでの各学科の紹介も非常にポイントをついた説明で好感が持てる。
- 情報処理安全確保支援士試験の午前試験免除は、社会の動きに的確に対応していると受け取れる。
- 非常に高いハードルを自ら設けている点が評価できる。また、それぞれの項目に今後の課題が示されているので、今後の課題についても比較的明確になっている。
- 技術革新を見据え、最新の情報技術教育を取り入れ、新しい技術にも対応できるエンジニアの育成を図っている点は、たいへん評価できる。

【改善すべき点】

- 理念を共有すべき対象を明確にし、各対象への共有方法の明文化、浸透度合いについて定期的に確認する手法を検討することが望まれる。
- 教育目標・育成人材像について、情報処理推進機構（IPA）が設定している、「ITスキル標準」や「iコンピテンシディクショナリ」などを参考にしたらどうか。
- 業界のニーズを捉えるため、卒業生からの情報収集を実施しているが、技術以外の部分で卒業生が何を感じているかを聞き取り、学生に生の声として伝えたら良いかと思う。（生活面の話は、同世代の人の話の方が身近に感じてくれるのではないかと思う。）
- 育成人材と教育内容の記載に重複感がある。
- 情報処理安全確保支援士試験の申請を行った背景の説明が不足していると思う。
- 「保護者や求人企業などに対しては、十分に周知されているとは言えない」と記載しているが、なにをもってそう判断するのが説明されていない。ここに、周知させる方法があるのではないか。
- 情報系の教育機関では、入学時と卒業時で社会情勢が変化していることが考えられる。そのような中で、社会や地域産業界のニーズを取り入れるのは非常に困難であるが、中長期の事業計画や将来構想を立てていかなければならないので、大きく捉えて学生や地域社会に何を提供するのかといった点を踏まえて、検討する必要があると思われる。
- 学校として、いわゆるシティプロモーションのような手法を取り入れることが必要ではないか。学校が描いている目標・ビジョンなどを、教職員、学生などが共有し、それにより、外部への発信力も高まるのではないかと思う。

2. 学校運営（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 役員14名中、13名が学外の役員で運営されている点は、他校にはない特長で高く評価できる。
- 意思決定は、定例会議・検討会議・委員会で明確になっている。
- 中期計画は策定しにくい面があるが、改善すべき点は理解し、整理されていると思う。
- 全体的に自己評価が低いように感じられるが、それぞれに対策が記されているので問題ない。
- 運営方針を策定し、事業計画書を作成していることは、評価できる。
- 年々、改善が図られ、ルールが確立されていくことも評価のひとつだと考える。

【改善すべき点】

- 中長期計画に関しては、現行の課題（就学人口の減少等）以外は、理念実現のための計画を中心に策定することが望まれる。
- 大きな意思決定のための会議・委員会については、開催スケジュールを明確にすることが必要である。
- 情報公開基準のガイドラインについては、文科省や県のガイドを参考にしたらどうか。
- 少人数の体制で陥りやすいのは、臨機応変に対応できる分、後々問題となることが多い。特例のはずがいつしか通例になってしまったりすることがあるので、規程に関しては早急の対応が必要かと思われる。
- コンプライアンス、特に個人情報管理は情報処理の教育を行っている学校としては、早急の対応が必要かと思う。
- 前項では理念に関する中長期事業計画の立案を問題としたが、ここでは学校運営に関する中期事業計画ということで、運営基盤＝経済基盤となることも否めない。これには同窓会役員の立場からも協力が必要であると感じる。
- 自己評価でもあるが、長期的な視野での方針も必要ではないかと思う。ただし、関連業界の技術革新・進歩は著しいので、その都度修正が必要となってくる状況だと思われる。そのため、中期・長期などに分け、それを定期的に見直すというルールの確立も合わせて必要だと思う。

3. 教育活動（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- コンピュータ・コミュニケーション科では、卒論発表会の際に企業や業界団体の意見をカリキュラムに反映し、見直しも行っている。
- 全教員に研究費が与えられ、各自の裁量で自由に使用されている。
- 学生一人一人に対する取り組みに関して、教職員の目が行き届く点が大変評価できる。

- 教職員の世代交代、教員の基礎研究等、的確に活動している。
- 教科内容については、過去の話だが卒業生として素晴らしいと確信している。
- 学校の性格上、特に関連分野の企業・関連施設等との連携は大切なことであり、各業界から必要とされている知識・技術をカリキュラムに取り入れ、個々の授業に反映させている点はたいへん評価できる。
- インターンシップへの参加や企業との連携事業などの実践的な実習も積極的に行っていること、そのほか、教員の質の向上を図るため、研修などの支援を積極的に取り入れていることも評価できる。

【改善すべき点】

- 授業評価について、アンケート集計作業に見合う効果が期待できないとあるが、共通する重要な評価項目については定期的実施し、教職員全体で共有する必要がある。
- 教員の募集に関しては、専門的な部分が大きいので、定年退職教員を見極めたうえで、事前に採用していくことが必要であると思われる。
- アンケートを重視しているとすれば、アンケートの集計作業をコンピュータの活用により迅速化できないか？アンケートの手法改善の検討は必要かと思う。
- 学生や保護者のニーズを取り入れるという考えもあるが、学校側が専門家の立場から必要と思われる教科を設定していく方が、効果が上がると思う。一見必要と思われない一般教養などの教科も、広い視野で見ると絶対に必要となるものなので、妥協してはならない点を見極めて教科を設定してほしい。
- 教職員の評価方法は、自治体でも試行錯誤を重ね、取り組んでいるところである。過去、アンケートなどに取り組んだが作業量に見合った効果が出ないということで現在は実施していないとのことであるが、今後、人事考査・評価制度の構築と合わせて、評価手法についても検討し、導入すべき点だと考える。

4. 学修成果（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 各種の就職率向上の活動により就職率の向上が見られる。
- 退学率低減のため、対象の学生に対し担任が適切な対応を行っている。
- 就職内定率が高いのは評価できる。
- 学校側の非常な努力により、高い内定率の維持は評価できる。また、各資格取得率が非常に高いのも評価できる。
- 専門教育では、資格取得は非常に判り易い判断基準だと思う。
- 就職や資格取得というのは個々の問題でもあり、学校としては、どう支援していくかということになる。さまざまなポイントで対策やガイダンスなどを開催し、また各種資格試験への担当責任者の設置など、積極的に対応していることは評価できる。

【改善すべき点】

- 卒業後のキャリア形成への効果については、同窓会等で定期的に聞き取り調査などを行って、データを蓄積していくことが望まれる。
- 卒業してからの個人的問題への対応は困難であるが、就職後の離職の原因を把握することも今後の就職指導に役立つのではないかと。
- 卒業後のキャリア形成への効果の把握は、非常に難しい面があるのではないかと。職種でなく会社で選択した人、入社後の配属が学校で得た基礎知識と全く異なった分野であった人等もいるかと思われる。アンケートによる情報収集も一案かと思う。
- 卒業生などが、出身校であるサンテクノカレッジと卒業後もかかわってくれることは、学校としてもたいへん良いことだと思う。そこから、最新動向がフィードバックされ、カリキュラムなどへの反映、というサイクルができると、学校にも有益である。それには、在校時から、「この学校で学んでよかった、過ごしてよかった。」と感じてもらえることが大事である。具体的には言えないが、そういう雰囲気を作り上げることも大切だと思う。

5. 学生支援（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- コンピュータ・コミュニケーション科では、大学院進学希望者に対し各種の指導を行い、合格を支援している。
- 独自の支援制度として、特別推薦入試制度やコンピュータ・コミュニケーション科の学費減免制度がある。
- 学生支援に関しては、学生と教職員の距離が近いことから、他校ではなかなかできない部分までの支援ができていると思う。
- 転職情報、就職後の再学習等、卒業生への支援体制は評価に値する。
- 専門学校では、大学以上に就職に敏感になると思う。卒業生としてかかわってきたが、本校は企業情報の収集や就職先の斡旋等にきめ細かいサービスを行っていると感じている。
- 学生の進路に関する取り組みとして、就職内定に至るまで個別指導につとめているとともに、プレゼンの模擬発表会などを行い、合格を支援しているなど学生にとって心強い体制だと感じる。
- 学業だけでなく、学生相談や健康管理、保護者との連携など在校生に対するフォローも大いに評価するところである。

【改善すべき点】

- 定期健康診断の検査項目について、医師と相談して適切かどうか見直すことが望まれる。
- 保護者との連携について、定期的にコンタクトを取り、内在する課題等を整理していくことが望まれる。
- 校医の予算確保が困難な点を考慮し、近隣病院との連携も検討してはどうか。

- 学生へのアパートやアルバイトの斡旋などに協力できそうである。同窓会役員としても学生の役に立つような運営を心がけたい。

6. 教育環境（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 校内をバリアフリー化し、駐車場から教室まで車椅子での移動が可能となっている。
- 施設・設備に関しては、基準をどこに置くかで、評価は違ってくると思われる。現状を見る中では、特に問題があるとは思えない。
- 問題点を的確に把握しており、良いと思う。特に AED、消火訓練等は評価できる。
- 20年近くに亘りかかわっているが、建物の維持や改修、器具の更新にその都度、心を砕いていると感じる。
- 関係機器の整備や校舎のバリアフリー化など、社会に求められている環境整備に取り組んでいることは評価できる。

【改善すべき点】

- 今後、防災訓練は定期的を実施することが望まれる。
- 専門的知識や技術を学ぶために、学生を巻き込んだ環境整備の検討なども学生にとって勉強になるのではないか。
- 図書室の完備については、情報書は陳腐化が激しいので、絶対に必要な書籍は原則学生が個々に購入し、基礎学問や必要と思われる一般教養に関する図書を中心に所蔵することを検討しても良いと思う。（寄贈にも協力できる。）
- 学校の性格上、情報機器の整備は当然のこととなり、技術革新の進展により、常に最新機器の整備というものは厳しいことだと推測できる。学校運営でもあったが、中・長期的な計画を策定し、その中で計画的に整備できるよう、財政的な面も含めて計画検討が必要だと思う。

7. 学生の受入れ募集（評価結果／適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 少子化が進む中で、学生を確保することは大変なことだと思うが、周知方法、募集方法など大変努力されていると思う。
- 少子化の中、学校側の多大な努力が図られており、非常に良いと思う。
- パンフレット更新、高校生を対象としたガイダンスなど、なすべきことは行っていると感じる。
- 私もラジオ CM を聞いたことがあり、各種メディアを活用し積極的に学生募集活動がされていると思う。

【改善すべき点】

- 教育成果や外部コンテスト実績は、学科別に広報することにより、高校生の学科選択時に各学科のイメージが理解しやすいと思われる。
- 学生募集は財務に直結する事柄なので、なるべく多くの学生を確保したいところである。しかし、学生が多くなり過ぎ、学校のキャパシティを超えると教育の質が低下してしまうので、適切な学生数を明確にしておく必要がある。

8. 財務（評価結果 / 適切：5名、不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 現在、運営は無借金で行われている。
- 借地の難しい問題が残っているが、監査報告書の公開等は評価できる。
- 文科省の補助金の活用など、工夫が見られる。
- 備品の入れ替えなどを借入なしで対応できる状況ということで、健全な財政運営が行われていると評価できる。
- 会計処理など、学校法人会計基準に従って行われており、理事会および評議員会についての承認、また、情報公開の対応への体制整備、Web サイトへの公開など、体制がしっかりと整っている。

【改善すべき点】

- 開校から四半世紀が経ち、校舎等の老朽化も進む中、施設の長寿命化を視野に計画の策定が必要だと考える。
- 校地の一部が借地である問題は、大きな課題だと考える。地権者に理解を得て早急な解決を望む。

9. 法令等の遵守（評価結果 / 適切：5名・不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 昨年度から、学校関係者評価委員会を設置し、活動を行っている。
- 法令等の変更に関しては、県私学・科学振興課からの情報により、理事会・評議員会を開催し、都度適正に処理されている。
- 個人情報の漏洩に関して、学校関係の場合は特に問題視される傾向があるので、個人情報保護規程が作成された点が評価できる。
- 問題点を洗い出し、明確化し、具体的な対応策を立てている点は評価できる。
- 個人に帰する権利についての考え方が近年重くなってきているので、対応が難しいと感じるが、学校自らが課題を見つけて自主的に整備していこうという点が見受けられる。
- 学校教育法や専修学校設置基準などの関連法令などが遵守され運営されている。

【改善すべき点】

- 個人情報保護に関し、公平性の面からも、I S Oやプライバシーマークの取得を検討することが望まれる。
- 少人数体制の場合、法令に違反する可能性があったとしても、対応はしやすい部分があるが、学校の評価で考えた場合、規程等を明確に定めておくことで、外部に対してのアピール性は大きいと思う。また、規程を明確にすることにより、組織として確立されていくと思う。
- 個人情報保護は昨今、非常に重要であるので保護対策の検討を要するかと思う。
- 学生および教職員の緊急連絡網などの設定を検討してはどうか。
- 個人情報保護のための規定等の整備が急がれる。

10. 社会貢献・地域貢献（評価結果／適切：5名・不適切：0名）

－委員コメント－

【評価できる点】

- 各ステークホルダーに対し、適切な社会貢献・地域貢献活動を行っている。
- 社会貢献・地域貢献は、積極的に実施されていると思う。
- 地域貢献は素晴らしい。キッズプログラミングの実施は評価できる。
- 自分が学生であった頃に比べ、格段に地域社会とのつながりを感じる学校になったと思う。
- 市内学校の教員を対象とした研修会への講師派遣やインターンシップの受け入れ、試験会場としての学校開放など、様々な形で地域貢献を行っている。

【改善すべき点】

- 学生のボランティア活動は、就職時のアピールとなるよう、学校としてフォローしていくことが望まれる。
- 地域からの要望に関して、「受託する・しない」の基準をある程度明確にして、要望者に対し不公平感の無いように対応していくことが望まれる。
- 学生の意識もあり、多くの学生をボランティア活動に参加させることは大変なことだと思われる。すでに実施されていることであるが、集まるかどうかは別として周知をすることがまず一歩だと思う。
- Web サイトでの地域貢献の公開は、是非すべきだと思う。
- ボランティア活動を、単位取得の要件にしても良いと思う。